

平成 27 年度図書館情報学海外研修助成報告書（抜粋版）

図書館情報メディア研究科 博士前期課程 1 年

201521661 劉 倩秀

研究テーマ：大学図書館における利用者教育の重要性に関する比較研究—筑波大学、香港大学、国立台湾師範大学、上海復旦大学を対象に—

研修期間：平成 27 年 9 月 12 日～24 日（13 日間）

目的地：中国上海 香港 台湾

主な訪問先：復旦大学（同济大学）香港大学（香港中文大学）国立台湾師範大学（国立台湾大学）

1. 研修目的

現在「大学図書館における利用者教育の重要性に関する比較研究—筑波大学、香港大学、国立台湾師範大学、上海復旦大学を対象に—」と題し研究を行っている。これらの4大学を対象に、それぞれの大学図書館においてどのような利用者教育が行われているか、それに対し大学生がどのような意識を持っているかを理解し、大学図書館における利用者教育の重要性を再検討することを目的とする。本研修では、香港大学、国立台湾師範大学、復旦大学（上海、中国）の学生を対象に、大学生は図書館利用者教育に対しどのような意識を持っているのかを具体的に調査するために、質問紙調査とインタビュー調査を行うことを目的とする。

また、今回は復旦大学と「上海大学図書館連携プログラム」で連携している一つの大学である同济大学、香港大学と連携している The Joint University Librarians Advisory Committee (JULAC は、香港特別行政区の大学補助金委員会 (UGC) の資金で運用されている、8 つの高等教育機関の図書館の情報資源とそのサービスについて、討議し、調整し、協力し合うための組織である。) の一つである香港中文大学と、国立台湾師範大学と連携し、「国立台湾大学連盟 (NTU Triangle)」を結んでいる国立台湾大学へも見学に行った。大学図書館の間どのように連携しているかについて図書館員から紹介してくれた。

2. 研修内容

2.1 復旦大学図書館

復旦大学は1905年創立の中国を代表する名門大学である。復旦大学図書館の前身は「戊午閲覧室」で、1922年に正式に設立された。復旦大学図書館では一年生から四年生まで目的別、段階的、継続的に図書館利用者教育を行っている。特に、新入生専用の図書館利用者教育のためのウェブページがある。しかし、今回学生に対するインタビュー調査で



は、新入生専用の図書館利用者教育のウェブページがあまり知られていないことがわかった。また、図書館利用者教育プログラムに対する重要性の認識について、文献探索講習会は一番人気があり、57.7%の学生がとても重要であると回答した。実際に復旦大学図書館では、

専攻別の最新の論文情報、研究動向の最新状況なども発表されている（左図は図書館を案内してくれた図書館員の王氏（左）と筆者）。今回得られた質問紙への回答は52名で、5名の学生にインタビュー調査を行った。

2.2 香港大学図書館



香港大学図書館（HKUL）は1912年設立、香港最古の学術図書館で230万冊以上の蔵書を持つ。香港大学図書館では米国大学・研究図書館協会（ACRL）の高等教育のための情報リテラシー能力基準に基づき、「情報リテラシー」と「研究能力」を養うことを目的とし、図書館利用者教育を行っている。特にデジタルリソースが多いため、利用者別によるオリエンテーションを行っている以外に、ITオリエンテーションなども

行っている。香港大学図書館では特に教員との連携に力を入れている。さらに、香港学術図書館リンク（JULAC）による相互協力によって、トップレベルの大学を支える図書館となっている。その動きに合わせて学習支援も充実化させている。サブジェクト・ライブラリアンが在籍しており、各部署の教員と連携して、各分野で必読の文献の紹介、データベースの使い方、文献整理アプリケーションの利用方法、情報検索法のセミナーを開催している（上の図は香港大学メインライブラリーの入り口）。今回質問紙の予定調査数は各大学50名だが、香港大学での調査は週末を含んでいたため、週末の大学は観光客向けになっており、学生が少なく、得られた質問紙への回答は37名で、5名の学生にインタビュー調査を行った。

2.3 国立台湾師範大学図書館

国立台湾師範大学図書館では新入生に対し、図書館オリエンテーションへの参加が必須となっている。また、本館以外に分館ごとにおいても利用者教育を行っている。その上で、Facebook などの SNS も各自所有しており、利用の PR を行っている。図書館



ホームページでは図書館員が整理した英語をはじめ、7つ以上の外国

語学習のための「言語学習リソース」がある。今後の発展方向としては、オンライン即時回答サービス、図書館利用者教育のための自主学习ウェブページを作成することである。

特に今回訪問を通し感じたことは図書館利用者教育に対し図書館員の職業満足度が高く、学生から人気もあることである。質問紙調査を通し、レファレンスライブラリアンへの満足度に関しては国立台湾師範大学が3大学の中で一番高いことがわかった。

（上の図：国立台湾師範大学図書館2階にあるレファレンスカウンター。左の図：国立台湾師範大学のレファレンスサービス課課長の蔡氏（右）と筆者）。今回得られた質問紙への回答は57名で、5名の学生にインタビュー調査を行った。



3. おわりに

今回の調査で特に気になったのは図書館利用者教育プログラムに参加したことのない学生にその理由について聞いた結果、一番の理由として「図書館オリエンテーション以外に、他の図書館利用者教育プログラムを知らない」である。図書館においてどのように図書館利用者教育を周知されるかは重要な課題の一つとなっている。図書館利用者教育を宣伝するための方法について、復旦大学では「指導教員から学生に声をかける」と「図書館のSNSアカウントでお知らせする」が一番有効であるとの回答を学生から得た。しかし、図書館員側ではメールサービスが一番有効であると認識されている。それはコミュニケーションのギャップの原因の一つとして認識すべきである。今回の調査結果は公共サービス水準を設定する際の一つの手法であるサービスギャップモデルを通して今後分析する予定である。

謝辞

今回、このような貴重な機会を与えてくださった図書館情報メディア研究科、知識情報・図書館学類および茗溪会支部図書館情報学橘会の皆様には深く御礼申し上げます。また本研修を実施するにあたり、多くの支援とご指導をいただきました指導教員の逸村裕先生、Patrick Lo先生、協力して頂いた各大学図書館の皆様にご心より感謝申し上げます。